

## ■開催レポート

タグエディケーターとしては、初めての研修であった。過去に1度、アシスタントの経験はあったが、やはりサポートとメイン講師では事前の準備も含め、相当なプレッシャーを感じながら研修当日を迎えた。

座学については、12名中ラグビー指導者及び経験者が10名、その他2名は未経験者であり、日本ラグビー協会作成DVDに若干の修正を加えた資料にて講義を行い、積極的な学ぶ姿勢が感じられた座学であった。

実技は、12名と少ない人員での実技となった。体育館が30m×23mと若干手狭の感はあったが、少人数での実施のため支障はなく、常に大きな声を出す事によるコミュニケーションの創出とスタートダッシュ感は感じられた。

また、受講者からは今後タグラグビーの楽しさを多くの子供達に体験させたいとの声があり、今後の地域での発展が期待されるなか実技は終了した。

## ○目的

タグラグビーを指導する者が正しく研修を受講し、楽しく安全なタグラグビー指導及びタグラグビーの普及に繋げること

## ○内容

- 1.事前打合 施設の活用方法・機材の確認・分担の確認等
- 2.当日準備 会場設営及び進行打合せ
- 3.運営体制 北海道協会：全体指揮1名（踊場洋）と助手1名（踊場稔） 計2名
- 4.講義 主に日本ラグビーフットボール協会が作成した映像を活用 指導者が多かったことから、コアバリューについて説明
- 5.実技 タグの扱い、コーリング、ボールハンドリング、対人スキル、まとめ、後片付け、レビュー

## ○課題

- 1.研修会参加者の掘り起こし、その参加者に合った実技の変更と準備
- 2.タグティーチャーへのブラッシュアップの機会創出
- 3.小学校や中学校への授業実践サポートや各地域における指導者養成

## ○成果

- 1.新規タグエディケーターの実践機会創出
- 2.タグラグビー指導者への修了証発行

## ○今後の展望

新規タグティーチャー認定の機会を創出しながら、認定されたタグティーチャーのブラッシュアップ機会を確保する。北海道という広域性を考慮し、より深い学びとなるためにも、他地域との交流を検討する必要がある。

（文責 踊場洋）



